

平成22年度実施 地域ICT利活用広域連携事業 成果報告書

実施団体名：特定非営利活動法人 地域間高速ネットワーク機構

事業名称：ICT利活用による沖縄県民の健康づくり普及促進事業

1 事業の目的

沖縄県では今後も予測される医療費増加の対策として、①若年期からの生活習慣病の予防対策の推進、②健康診断の受診率アップ等への対応が急務の課題となっている。そこで本事業では、社会全体として健康づくりを支援するために、PHR、SNS、デジタル・サイネージを用いて、バス会社、地域企業そして健康づくりの専門家の方々と連動し、地域住民の健康づくりを支援する社会システムを構築し、その普及に向けた活動を行う。

2 事業の概要

本事業では、

- ①個々の日常の健康状態を管理する PHR サービス
- ②健康づくりをテーマとした仲間作りとそのコミュニティの交流を支援する SNS サービス
- ③歩く歩数や食事記録、血圧・体重等の記録がポイントとなり、そのポイントを基に地元企業と連携しながら展開するポイント還元サービス
- ④生活習慣の改善をテーマとした運動・食事に関する講習会・イベントの開催
- ⑤常設地点やバス車内にデジタル・サイネージを設置することによる情報配信サービス

の5つのサービスを巧みに組み合わせて、地域住民とバス会社、地域企業そして健康づくりの専門家の方々と連動することによって地域経済の活性化と併せ持った形で、地域住民の「健康づくり」を支援する社会システムを構築する。

3 事業の実施概要（詳細は次ページ以降参照）

今年度、当事業は ICT システムの開発および構築、システムで展開するコンテンツの制作、ICT利活用のための人材育成、そして事業を推進していくための関係協力事業者を集めていった。

ICT システムとしては、WEB 展開を基本とした PHR/SNS/PHR 参照システム、およびポイント管理システム、そして WEB 以外の展開として、デジタル・サイネージの設置およびその管理システムの開発及び構築等を行った。

人材育成としては、ICT 利活用教室、当事業にモニターとして参加して頂いていた方々を対象としたモニター講習会、ICT 利活用普及促進のためのイベント、デジタル・サイネージに流すコンテンツの制作教室等を行った。

現在、当事業は約 50 社の事業者が、何らかの形で絡む非常に大きなグループとなっている。

I 人材育成・活用成果

1 申請主体におけるICT人材の育成・活用内容

① ICT人材の育成人数

(ア) ICT利活用教室（初級編）

参加者：37人

（参加者の概要）

参加者の属性は、社会人（高齢の個人事業主、会社員、大学職員、主婦）が3分の2を占め、残り3分の1が学生（大学生）であった。

社会人：24人

学生：13人

(イ) ICT利活用教室（中級/実践編）

参加者：34人

（参加者の概要）

初級編に参加した方々が大半を占めたが、その中でも、高齢者および主婦の方々は初級編どまり終了し、その代わりIT関係者および学生が増えた。

社会人：18人

学生：16人

(ウ) デジタル・サイネージ・コンテンツ制作教室

参加学生数：45人

（参加者の概要）

沖縄大学（学生）：14人

沖縄県立芸術大学（学生）：6人

インターナショナル・デザイン・アカデミー（学生）：19人

ヒューマン・アカデミー（学生）：6人

(エ) ヌチガファーアイランドのモニターテスト

参加者数：1,100人

（参加者の概要）

社会人：797人

学生：303人

性・年齢別内訳は以下の通り。

20歳未満		20～29歳		30～39歳まで		40～49歳まで		50歳以上		男性計	女性計	合計(人)
男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性			
109	139	181	194	150	101	76	66	51	33	567	533	1,100
9.9%	12.6%	16.5%	17.6%	13.6%	9.2%	6.9%	6.0%	4.6%	3.0%	51.5%	48.5%	100.0%

この中で、法人企業団体やグループとして参加された方々が非常に多い。

(オ) ヌチガファーアイランドモニター参加者講習会

第1回ヌチガファーアイランドモニター講習会参加者：32人

（参加者の概要）

モニターテストの参加者が多くを占めたが、モニターに参加していない方々も若干見受けら

れた。基本的に社会人が多く、20代後半から30代が中心を占めたのは意外な感じだった。通常、このような健康に関する講習会となると、比較的高齢の方々が大半を占める場合が多いので、講師の先生も驚かされていた。

第2回ヌチガフーアイランドモニター講習会参加者：38人

(参加者の概要)

第1回に参加された方々がそのまま第2回目にも参加された。更に第1回の講習会の評判も良く、知り合いを何人か連れられてきた。

第3回ヌチガフーアイランドモニター講習会参加者：36人

(参加者の概要)

これまでの参加者とほぼ同一であった。

第4回ヌチガフーアイランドモニター講習会参加者：28人

(参加者の概要)

「禁煙」がテーマであっただけに、参加人数の減少が見られた。

第5回ヌチガフーアイランドモニター講習会参加者：40人

(参加者の概要)

体育館での実践ということと、講師が沖縄県では有名な「スポーツパレスジスタス」のトレーナーということもあって、参加人数はもっとも多かった。特に、運動療法士の資格を持つ専門の方々の参加が見受けられたことは、講師の先生とともに驚いた。

(カ) ICT利活用普及促進イベント (2日間)

1日当たりイベント観客数：約130人～150人

(参加者の概要)

初日の5月21日は、イベント参加者は、約130名くらいであり、男性の割合が多かった。

2日目の5月22日は、ファミリー層が多く、年齢層も広く、男女の割合も同じくらいであった。

② ICT人材の育成方法

(ア) ICT利活用教室 (初級編)

教材は各担当講師が用意し、プロジェクターを使った説明を行いながら、PCルームにて講習会参加者は各々PCを操作し学んだ。

第1回：2011年1月22日 14:00～ 実施

タイトル：パソコン“超”入門

担当講師：小渡悟 (沖縄国際大学産業情報学部産業情報学科)

講習内容：

- パソコンって何なの？
- パソコン操作の基本
- 文字入力の基本　－メモ帳による文書作成－
- パソコンでお絵かき！　－ペイントによる画像描画－
- ゲームをしよう！　－Windows 付属のゲームソフト－

第2回：2011年1月29日 10:00～ 実施

タイトル：Google(グーグル “超” 入門

担当講師：八幡幸司（沖縄大学 法経学部/マルチメディア教育研究センター）

講習内容：

- Google(グーグル)って何なの？
- Google による Web 検索の超基本
- Google の提供する Web 検索以外のサービス

第3回：2011年2月12日 10:00～ 実施

タイトル：インターネットの歴史とウェブサービス移り変わり

担当講師：米須渉（サイオンコミュニケーションズ株式会社ネットワーク部マネージャー）

講習内容：

- History of Internet
 - インターネットの歴史
 - 沖縄でのインターネットの歴史
 - 最近はやりの Web サービス
- SNS(Facebook/Twitter)、動画(YouTube/ニコニコ動画/Ustream)

第4回：2011年2月26日 10:00～ 実施

タイトル：動画配信サイトの歴史と現状、未来

担当講師：米須渉（サイオンコミュニケーションズ株式会社ネットワーク部マネージャー）

講習内容：

- YouTube の歴史
- YouTube にまつわる数字
- SNS 的使い方(EA Sports)
- プロが動画を上げている
- YouTube からのデビュー
- バイラル広告
- オフィシャルチャンネル(政党/省庁/レコード会社)
- 教育面(YouTube EDU/ランディ・パウシュ等)

(イ) ICT 利活用教室（中級/実践編）

教材は各担当講師が用意し、プロジェクターを使った説明を行いながら、PC ルームにて講習会参加者は各々PC を操作し学んだ。

第1回：2011年3月2日 18:30～ 実施

タイトル：ICT 概要ならびに現在の流れ

担当講師：當眞大地（株式会社レキサス）

講習内容：

- ICT の歴史
 - Web サービスの体験
- SNS(mixi/Facebook/Twitter)、通販(Amazon/楽天)、動画(YouTube/ニコニコ動画)

第2回：2011年3月11日 18:30～ 実施

タイトル：情報セキュリティーについて

担当講師：下門祐二（株式会社レキサス）

○情報セキュリティーに関するこれまでの流れ

○現在のセキュリティーに関する考え方

○実践！情報セキュリティー

タイトル：サイト運営について

担当講師：當眞大地（株式会社レキサス）

講習内容：

○サイト運営の基本

○SNS サイトの運営

○ブログサイトの運営

○SNS サイトを見てみよう！

第3回：2011年3月18日 18:30～ 実施

タイトル：Web リテラシーについて

担当講師：山根俊昭（株式会社レキサス）

講習内容：

○さまざまな Web サービス

○Google サービスの活用術

○Google を使ってみよう！

第4回：2011年3月25日 18:30～ 実施

タイトル：今後の ICT 利活用について

担当講師：宮里悠平（株式会社レキサス）

講習内容：

○アメリカ・シリコンバレーの動向

○最新の Web サービスの紹介

○最新 Web サービスの探索

(ウ) デジタル・サイネージ・コンテンツ制作教室

沖縄県にある沖縄大学、沖縄県立芸術大学、インターナショナル・デザイン・アカデミー、ヒューマン・アカデミーの4校で、情報メディアまたはデジタル・コンテンツを専門にされている先生方4名の協力のもと、各校の学生に対し、デジタル・サイネージに配信するコンテンツ制作に関する講習を行った。

各校の先生方それぞれが10回の講習を参加学生に対し行い、その成果として参加した学生は、「歩く」を基本テーマとした15秒のサイネージ・コンテンツを制作した。各校によって参加学生が持っている基礎レベル知識に違いがあるため、各先生方の判断で、講習は進めていった。指導を行った先生方およびその内容は以下の通り。

○沖縄大学 地域研究所 所長 緒方 修

講習実施内容は、以下の通り。

- 第1回：企画説明会/デジタル・サイネージとは（2010年12月2日）
- 第2回：デジタル・コンテンツ制作基礎1（2010年12月9日）
- 第3回：デジタル・コンテンツ制作基礎2（2010年12月16日）
- 第4回：15秒の表現方法（2010年12月22日）
- 第5回：PC操作実習（アドビ：イラストレーター）（2011年1月6日）
- 第6回：コンテンツ制作実習1、個別指導（2011年1月13日）
- 第7回：コンテンツ制作実習2、個別指導（2011年1月20日）
- 第8回：コンテンツ制作実習3、個別指導（2011年1月27日）
- 第9回：コンテンツ制作実習4、個別指導（2011年2月3日）
- 第10回：制作作品発表/総合評価（2011年2月10日）

○沖縄県立芸術大学 デザイン科 仲本 賢

講習実施内容は、以下の通り。

- 第1回：企画説明/デジタル・サイネージとは（2010年12月1日）
- 第2回：デジタル・コンテンツ制作基礎概論（2010年12月8日）
- 第3回：コンテンツ制作実習1、個別指導（2010年12月15日）
- 第4回：コンテンツ制作実習2、個別指導（2010年12月22日）
- 第5回：コンテンツ制作実習3、個別指導（2011年1月5日）
- 第6回：コンテンツ制作実習4、個別指導（2011年1月12日）
- 第7回：コンテンツ制作実習5、個別指導（2011年1月19日）
- 第8回：コンテンツ制作実習6、個別指導（2011年1月26日）
- 第9回：コンテンツ制作実習7、個別指導（2011年2月2日）
- 第10回：制作作品発表/総合評価（2011年2月9日）

○インターナショナル・デザイン・アカデミー デジタル・デザイン科 大山 健

講習実施内容は、以下の通り。

- 第1回：企画説明/デジタル・サイネージとは（2010年12月6日）
- 第2回：サイネージ上での表現方法（2010年12月13日）
- 第3回：コンテンツ制作実習1、個別指導（2010年12月20日）
- 第4回：コンテンツ制作実習1、個別指導（2011年1月5日）
- 第5回：コンテンツ制作実習1、個別指導（2011年1月11日）
- 第6回：コンテンツ制作実習1、個別指導（2011年1月17日）
- 第7回：コンテンツ制作実習1、個別指導（2011年1月24日）
- 第8回：コンテンツ制作実習1、個別指導（2011年1月31日）
- 第9回：コンテンツ制作実習1、個別指導（2011年2月7日）
- 第10回：制作作品発表/総合評価（2011年2月14日）

○ヒューマン・アカデミー アニメーション専攻 又吉 浩

講習実施内容は、以下の通り。

- 第1回：企画説明/デジタル・サイネージとは（2010年12月1日）
- 第2回：デジタル・サイネージ表現方法1（2010年12月8日）

- 第3回：デジタル・サイネージ表現方法2（2010年12月15日）
- 第4回：コンテンツ制作実習1、個別指導（2010年12月22日）
- 第5回：コンテンツ制作実習2、個別指導（2011年1月5日）
- 第6回：コンテンツ制作実習3、個別指導（2011年1月12日）
- 第7回：コンテンツ制作実習4、個別指導（2011年1月19日）
- 第8回：コンテンツ制作実習5、個別指導（2011年1月26日）
- 第9回：コンテンツ制作実習6、個別指導（2011年2月2日）
- 第10回：制作作品発表/総合評価（2011年2月9日）

また、これら先生方の講習とは別に、東京のデジタル・サイネージ・コンソーシアムで常務理事をされている江口靖二氏（江口氏の助手として川村氏）を講師として招き、現在のデジタル・サイネージにおいて展開されている「最新サイネージ・コンテンツの動向」についての特別講習会を行った。

（2011年1月24日 会場：インターナショナル・デザイン・アカデミー 大教室）

上記を踏まえ、これら先生方の指導の下、集まったコンテンツ45作品は、当事業のデジタル・サイネージにて配信・放映した。

また、これらの作品の中から、各校金賞1作品、銀賞1作品を選定、さらにそれら計8作品の中から最優秀賞：1作品、優秀賞：2作品、ヌチガフー賞：1作品の4作品を選定し、ICT活用普及促進イベントにおいて、その授賞式を行った。

更に、これら4作品は、デジタル・サイネージ・コンソーシアムが主催する2011年デジタル・サイネージ・アワードに出展。

受賞こそはしなかったが、参加学生の志気は大いに高まった。

（エ）ヌチガフーアイランドのモニターテスト

当事業のモニターテストは、1月中旬から下旬の期間に開始し、3月中旬から下旬までの8週間、モニターとして1,100名の方々が参加した。

モニターテスト開始当初は、当事業のPHRおよびSNSシステムも立ち上がったばかりで、システムバグやまだ一部機能が開発途上であったりして、モニターの方々にはご迷惑をお掛けする場面もあったが、そのおかげでシステム自体の完成度は、内部テストを繰り返すよりもはるかに高まったと言える。

モニターテストの流れは、以下の通り。

①モニター募集の告知

（マスコミへのプレス発表、ブログサイトへのバナー広告掲載、ラジオ広告、個別企業/団体案内 等々）

②参画お申し込み（個人/団体）の受付

③事前に個別歩数計のセッティングおよびデータベースへの登録

④説明会の実施

（申し込みを頂いたにも関わらず、指定説明会に来られなかった個人/団体は個別に対応）

「説明会の内容」

○当事業の概要とシステムの概要およびその使い方の説明

- モニターとしての参加にあたっての注意事項
- アンケートへの回答ご協力
- 上記を行った上での歩数計の貸出

その後、8週間後に再度、アンケートにご回答頂いた上で、継続して頂く方は、そのままご継続（但し、有料である）して頂き、辞められる方は、終了手続きを行った。

このモニターテスト期間において、当事業でご協力いただいている健康に関するご専門の先生方の講習会等も行っていった。また、それらを通じて、当事業に対する様々なご意見も頂き、それらの意見も参考にしながらシステムの調整も行っていった。

現在では、1,100名の参加者の中、612名が当事業サービスのユーザとしてそのまま継続されている。

(オ) ヌチガフーアイランドモニター参加者講習会

健康づくりに対する理解をより深めるために、健康に関する専門分野の先生方から、それぞれの専門分野の立場で、当事業にモニターとしてご参画して頂いている方々を中心に講習会を実施した。但し、講習会参加者は、モニターのみならず、モニター以外の一般の方々の参加も見受けられた。

教材は各担当講師が用意し、プロジェクターを使った説明を行った。但し、第5回の講習会だけは、運動の実践指導ということで、体育館を使用した。

第1回モニター講習会：2011年2月2日 実施

タイトル：聞いてビックリ！勘違いだらけの健康情報

担当講師：清水 隆裕（ちばなクリニック健康管理センター 医長）

第2回モニター講習会：2011年2月8日 実施

タイトル：どうしたら運動を続けられる？

担当講師：大場 渉（沖縄大学人文学部福祉文化学科 准教授）

第3回モニター講習会：2011年2月19日 実施

タイトル：美味しく食べて心も体もキレイにダイエット

担当講師：伊是名カエ（ヘルスプランニングカエ 代表）

第4回モニター講習会：2011年2月23日 実施

タイトル：タバコの真実

担当講師：山代 寛（沖縄大学人文学部福祉文化学科 教授）

第5回モニター講習会：2011年3月8日 実施

タイトル：歩き方で人は見違えるほど変わる！

担当講師：益田 健（株式会社フィットネスプロモーション）

(カ) ICT 利活用普及促進イベント

当イベントは、沖縄県民に ICT 利活用の普及促進を目指して、最新のスマートフォンの使い方や電子書籍の楽しみ方などの体験学習を基本としたイベント型講習会を行った。

その中で、当事業が進めている「沖縄県民の健康づくり普及促進事業」としてヌチガフーアイランドのプロジェクトの紹介も行った。

イベント実施日時：2011年5月21日/22日の2日間

イベント会場：那覇市牧志1丁目の緑が丘公園内広場

当初は、3月の中旬の開催予定であったが、震災の影響でイベントの自粛や沖縄の亜熱帯気候は4月下旬より梅雨入りになり、梅雨の晴れ間をいかくぐり、この2日間を選び実行した。告知は、県内の新聞&メディアの各社に告知し、沖縄県庁にてイベント前の告知記者会見を行い、各社にイベント開催のPRの協力を依頼。更に、県内中南部の糸満から宜野湾市までの幹線道路の道路掲示版に、イベントポスターを掲示。各種専門学校やデジタル・サイネージの作品制作に関わる専門学校や大学などにチラシやポスターを配布し、PRを展開した。

野外での当日イベントは、梅雨の合間の晴天に2日間とも恵まれ、会場はむしろ暑いくらいの陽気であり、参加者も帽子や日傘を差しながら、思い思いに興味のあるセミナーに自由に参加された。野外のイベントらしく、健康的に・楽しく・元気に、老若男女問わず、幅広い年齢層が参加された。

イベントの流れは以下の通り。

○スマートフォン基本講習会

ソフトバンクモバイル株式会社 那覇沖映通り店 神村 明利 氏
iPhone4を使った体験型講習

○ビジネスシーンによるスマートフォン活用術

株式会社レキサス 安田 陽 氏
スマートフォンの使い方と便利アプリのご紹介

○ヌチガフーアイランドのプロジェクト紹介

ヌチガフーアイランド推進事務局
歩数計のデータをデジタル・サイネージから送信するという健康づくり

○電子書籍の楽しみ方（対談形式）

株式会社ブレーン沖縄 安井 滋雄 氏
有限会社楽園計画 田崎 聡 氏
電子書籍の活用によるライフスタイルの変化

21日に関しては、デジタル・サイネージ・コンテンツ制作教室にて制作された学生作品の中から選んだ受賞4作品の表彰式も行った。

③ 1で育成等したICT人材の活用人数

(ア) ICT利活用教室（初級編・中級/実践編）

3人（社会人）

男性：3人（30代）

(イ) デジタル・サイネージ・コンテンツ制作教室

45人（学生）

沖縄大学（学生）：14人

沖縄県立芸術大学（学生）：6人

インターナショナル・デザイン・アカデミー（学生）：19人

ヒューマン・アカデミー（学生）：6人

(ウ) モニターテスト&モニター講習会

モニター参加者 1,100 人（内訳は I-1- (エ) と同じ)

(エ) ICT 利活用普及促進イベント

3 人（専門学校生：女性）

④ ICT 人材の活用方法

(ア) ICT 利活用教室（初級編・中級/実践編）

ICT 利活用教室の受講生の中で、当事業にモニターとして参加されていた方々がいた。その中から、当事業の WEB サービスを使いこなしたいと申し出のあった 3 名に対し、公開日記をつけてもらうように協力を依頼した。

3 名とも WEB 上での日記をつけるのは初めてということで、記事の書き方や写真のアップロードの仕方等を指導し、モニター期間参加中、公開日記を書いてもらった。

(イ) デジタル・サイネージ・コンテンツ制作教室

コンテンツ制作教室に参加した 45 名から出展された作品 45 作品は、当事業が設置したデジタル・サイネージにおいて 3 月初旬から 5 月下旬までの期間（3 月下旬から 4 月下旬にかけては東北大震災のため、配信コンテンツも震災情報のみで自粛した）配信した。

当事業のデジタル・サイネージで流すコンテンツがまだ少ない期間において、学生作品コンテンツは注目をあびた。

現在は、上記 45 作品の中から選定された最優秀賞 1 作品、優秀賞 2 作品、特別賞 1 作品の 4 作品を配信している。また、これら 4 作品は当事業の WEB サイトにもアップロードし、インターネット上からも閲覧できるようにしている。

(ウ) モニターテスト&モニター講習会

当事業のモニターテストでは 1,100 名の方々が参加した。モニター開始当初は、当事業のシステムも未完成の状態でもあり、内部テストも十分とは言い切れない状況の中、モニター参加者より、「このようにしたら、こうなった」等々のご意見を頂いた。

我々にとっては、想定外の使い方をされる場合が多かったので、よりよいシステムの開発にはとても貴重な意見として役立った。

また、「このようにするともっとおもしろくなるのではない」「もう少しこうだったらもっと使いやすいのに…」等々のご意見も頂いた。

すぐに対応できるものは対応し、根本的に改変が必要とされるものは、次期の改良案件として参考にさせて頂いている。

モニター終了後は、612 名の方々が継続ユーザとしてご登録頂き、当事業のスターターユーザとしてご利用頂いている。

(エ) ICT 利活用普及促進イベント

イベント期間中は、当事業サービスにとっても関心をもってもらった 3 名の学生が、イベントに訪れた方々に対し、当事業サービスの紹介をしてもらった。

機械操作がいきなり苦手とされる中高齢者の方々に対しても、分かりやすく親切に説明する様子は、今後の事業紹介の有り方において、非常に参考になった。

⑤ 次年度以降のICT人材の育成・活用内容（予定）

前述でも記載した当事業の継続ユーザは、当事業サービスのスターターユーザである。

これらユーザを基本として、今後は、このユーザをどのように拡大していくかが重要となる。

その中で、SNS機能を備えた当事業サービスにおいて、そのSNSの活性化、特にコミュニティの活性化に次年度は重きをおきたい。

SNSコミュニティを活性化させる場合、当然、それを運営するSNSコミュニティ管理運営者が必要となってくる。SNSそのものの知名度が高く、参加者も多い場合にはそれらSNSコミュニティも自然に発生してくるものだが、当事業のように、まだ認知度が低く、参加者も少ない場合には、本年度で育成したICT人材の方々とも連携しながら、SNSコミュニティを創設していき、更には地域連携も図っていきたいと考える。

そして、それらSNSコミュニティの活性化とともに、地域社会に根付いた健康づくりリーダーの育成にも着手したい。

その一方で、デジタル・サイネージに配信するコンテンツ作りにも、多くの方々に参加できるようにしたいと考えている。

デジタル・サイネージは、テレビや新聞等のマスメディアとは異なり、設置地域に根差したコンテンツを基本に展開するメディアである。今回、多くの学生が作品を制作し、その制作した作品が、多くの人の人目に触れるところで、公開されたことに対しては、参加学生たちもその制作意欲をより高めていくことにつながった。

この点から考えても、ただ単にCMばかりが流れているというよりは、自分たちが作ったコンテンツが街に流れるという動きの方が、より地域住民に受け入れられやすいICTサービスとなる。それ故に、本年度も引き続き、デジタル・サイネージ・コンテンツ制作教室の講師としてご協力いただいた先生方とともに、沖縄のデジタル・コンテンツの制作技術の更なるスキルアップを目指しつつ、先生方が受け持つ学生とともにおもしろいコンテンツ作りに取り組んでいこうと考えている。

2 事業運営主体におけるICT人材の育成・活用内容

① ICT人材の育成人数

当事業の申請主体と事業運営主体は同一であるため、当項目に関する内容は前述に記載した内容と同じである。

② ICT人材の育成方法

当事業の申請主体と事業運営主体は同一であるため、当項目に関する内容は前述に記載した内容と同じである。

③ 1で育成等したICT人材の活用人数

当事業の申請主体と事業運営主体は同一であるため、当項目に関する内容は前述に記載した内容と同じである。

④ ICT人材の活用方法

当事業の申請主体と事業運営主体は同一であるため、当項目に関する内容は前述に記載した内容と同じである。

⑤ 次年度以降のICT人材の育成・活用内容（予定）

当事業の申請主体と事業運営主体は同一であるため、当項目に関する内容は前述に記載した内容と同じである。

II システム構築・活用成果

1 構築システム概要

当事業では、以下のシステムを構築した。

(ア) PHR/PHR 参照システム (Personal Health Record)

歩数、食品摂取品目、体重、血圧、心拍数を、ユーザ毎の情報としてサーバにて一元管理する。

サーバで管理されている情報は、履歴情報として視覚的に参照することができる。

保存されているデータは、履歴参照を行うためだけでなく、後述する、SNS システム、ポイントクーポンシステムにおいて、2 次的な利用を可能とする。

又、利用者の利便性を考慮し、歩数情報については、ユーザに配布した歩数計の通信機能を用い簡易な操作にて、サーバへのデータ取り込みをサポートする。

歩数計は、ユーザ毎に割り振られたユニークな ID を保持し、その ID から個人を特定することが出来る。医療機関向けのサービスとして、歩数計から PHR 履歴情報を参照することが可能となる。

(イ) SNS システム(Social Networking Service)

ユーザ間でのコミュニケーションの場を提供する。ツールとして、コミュニティ作成管理、掲示板、ユーザ間メッセージ、日記、アバター等の機能を提供する。

上記 (ア) PHR 情報の入力、履歴閲覧を行うためのインターフェイスを提供する。

PHR 情報の 2 次利用の部分では、PHR 歩数情報を元に、歩数ランキング、アバターへの変化連動を行うことで、ユーザ間のコミュニケーション、それらの効果として PHR 情報の入力を促す事を目的とする。

また、ユーザ間のコミュニケーションだけでなく、運営事務局からの情報提供、各種連絡を全体ユーザ、個別ユーザに対して行うことが出来るようにし、運用コスト削減が行える事を目的とする。

(ウ) ポイント管理システム

PHR 歩数記録、PHR 各入力履歴からポイントを算出する。ポイント数に応じて、クーポン、商品へ交換する機能を提供する。

商品の種類として、交換商品、クーポン、デジタル商品、寄付の 4 種類を想定し、商品種類により、配送情報、交換商品の履歴などを管理する事が出来ることとする。

(エ) デジタルサイネージシステム

電子広告表示システム。サーバにて表示端末毎にスケジュールされた広告を配信、表示する。

また、上記 (ア) PHR 歩数情報をサーバへ転送するインターフェイスを提供する。

端末の種類として、常設型、移動体型 (バス) の 2 種類を用いた。

2 システム設計書

別添 2 のとおり。

3 システム運用で得られた成果

当事業を推進していくにあたって、健康づくりサポートを基軸とした多くの協力事業者を得た。

沖縄県では、「健康づくり」をテーマとして、異業種の団体/企業が連携するという事は、これまであまり無かった。ただ、各団体/企業に当事業の基本的な考え方を説明していくと、やはり沖縄県の県民がもっと健康な暮らしがしていけるような環境を整えていかなければならない、という点においては多くの賛同を得られた。特に医療関係や運動関係に関わりのある事業をされている方々は、常に危機意識はもっていたが、それを如何に実現していくかという点では、絶え間ない個別の努力をなされている方も多かった。当事業がその起爆剤になればという期待も大きい。

また、ICT人材を育成していく中で、特にデジタル・コンテンツ作りをメインにしている学生においても、その制作した作品をこれまではWEBだけでしか発表する場がなかったのに気付かされた。その点で、デジタル・サイネージはもっと身近なメディアである。今回デジタル・サイネージ・コンテンツ制作教室で制作した作品が、沖縄県内に設置した50台のデジタル・サイネージを通して、地域住民に向けて配信されるというのは、参加学生の制作意欲を大いに高めた。今後、このような場がもっと提供されれば…という声は参加学生の中から多く寄せられた。

健康情報の配信を主体に、当事業のシステムに組込んだデジタル・サイネージではあるが、自分が作ったコンテンツが流れる、という等身大の身近な地域メディアとして、新たなデジタル・サイネージのあり方を考えさせられた。

4 平成22年度事業実施において明らかとなった課題

当事業は、ICTを用いて「健康づくり」をテーマとして取り組んできた。できるだけ多くの人に参加して、「健康づくり」を楽しんで頂けるようシステムに工夫をこらしていった。その工夫点としては、

- 1) ゲーム感覚的に楽しめる PHR インターフェイス
- 2) 同一思考の仲間づくりを促進する SNS の導入
- 3) SNS 導入による参加ユーザからの情報発信
- 4) ポイント還元サービス導入による参加ユーザのお得感の創造

等である。これらの機能に関しては、モニターとして参加して頂いた方々、および ICT 利活用教室参加者からも好評は得た。しかし、SNS の場合、既存のサービス（例えば、フェイスブックやツイッター等）に参加しているユーザも多く、そこで発信している情報を改めて当事業の中に同じように書き込んでいくのが二度手間になる、という声も多く頂いた。つまり、これら既存のサービスと連携したらもっと使いやすくなるし、ユーザからの情報発信力も高まるのではないだろうかということが明らかになった。

また、当事業を提案した時点では、現在のようにスマートフォンが躍進的に伸びてきている状況にはなかった。当事業においては、PC および携帯電話等のデバイスには対応している。また、現時点においては、スマートフォンは PC のインターフェイスで対応可能となっているが、やはり、この点に関しても、スマートフォンはスマートフォンとして対応してほしいとの声が多い。また、当事業ではフェリカ通信機能付き歩数計をご利用頂く仕組みにしているが、スマートフォンを専用歩数計として利用できないか、という意見も多く頂いた。この点に関しては、ユーザのみならず、運営主体側にも大きなメリットが発生することに気付いた。つまり、歩数計をスマートフォンの専用アプリとして展開する事においては、運営段階の歩数計販売用在庫を多く持つ必要がなくなるとい

う点である。この点は運営事業者側の資金繰り政策に大きく影響する。

高齢者や ICT に苦手意識をもつ方々には、歩数計そのものを持つ方が喜ばれているが、ICT を使いこなしている方々には、もう一步、踏み込んだ使い勝手の良さが求められている。特に既存 ICT サービスとの連携は、事業の発展性と効率性の観点からとても重要と考える。

5 自律的・継続的運営の見込み

本年度においては、事業そのものの開発およびその構築が主となり、実質的な普及促進のための営業活動は次年度からとなる。

ただ、当事業のテーマが「健康づくり」ということもあいまって、本年度においても多くの団体/企業が何らかの形でご協力・ご支援を頂いた。(詳細は「Ⅲ 実施体制」を参照) 沖縄県・那覇市等の地方自治体、ちばなクリニックや南部医療センター等の病院関係者、大学・専門学校、健康づくりに関わる関係企業および団体、そして沖縄県では名だたる企業からもご協力を頂いている。その他にも、ポイント協賛として 20 社以上の企業からご協力を頂いている。これまで他に類のない事業として、沖縄県の事業関係者からも注目されている状況である。

これらを機本として、次年度の自律的・継続的運営の見込みは以下のように考える。

(ア) 実施体制面

本年度においては、多くの協力関係団体/企業と結び付くことができた。

次年度においては、本年度に結びついた団体/企業との間において、その関係強化を図っていく必要がある。つまり、それぞれの個別団体/企業にとって、お互いが結びつくことで更なるメリットが生まれるよう個別に企画を組み立てていかなければならない。

当事業は、「健康づくり」をテーマとして、WEB およびデジタル・サイネージで事業を展開している。その一方で、各団体/企業は、新規の市場開拓および新規事業展開の新たな模索を行っている。また「健康づくり」をテーマとした健康市場への関心度も高い。

双方の思いを密接に協議し合うことによって、より強固とした体制が築いていけるものと思う。

(イ) 資金計画面

当事業における毎月の必要経費は、極力無駄を省いて 2,100,000 円と見込んでいる。

これらを賄う収入源としては以下の 2 点が挙げられる。

①事業サービスの利用ユーザからの収入

当事業のスターターユーザとして約 600 人が獲得できた。これらのユーザは 1 年会員として登録されている。

初期割引サービスも含み、ユーザからの総収入として月額 150,000 円は確保された。今後はこれら利用ユーザを 1,500 人まで引き上げるよう営業推進を図っていく。

②デジタル・サイネージ有料 CM からの収入

当事業のデジタル・サイネージの有料 CM は、

大口契約：100,000 円/月 (15 分に 1 回放映)

小口契約：25,000 円/月 (1 時間に 1 回放映)

で販売開始をした。

まだ、営業を始めたばかりなので、これからの進展を見守っていく段階だが、顧客の反応とし

ては、新しい広告メディアということもあり、関心を抱いている。

8月には広告代理店とも連動した本格営業も始動する。また、この営業に関しては沖縄県内だけでなく、当NPO法人のつながりを利用した東京での営業も同時に図っていく。

当面は大口契約10本、小口契約40本の獲得を目指して進んでいく。

この時点で2,000,000円/月となる。

当面の活動資金においては、地域間高速ネットワーク内で資金の融通をしあいながら進めていく。

6 今後の展開方針

今年度開発したPHRシステムでは、運動・食バランス・血圧/脈拍・体重という基本管理機能を構築することができた。平成23年度においては、当事業システムの本格的営業推進を行う。

推進すべき営業項目としては、

1) 当事業サービスそのものの沖縄県民への認知度のアップ

当事業協力事業者の方々との個別連携により、WEBまたはサイネージによる告知とともにマスメディアとの連携も図っていく。

2) 当事業サービスの利用ユーザの拡大

ICT利活用教室/デジタル・サイネージ・コンテンツ制作教室等に参加して頂いた方を基本にSNSコミュニティ活性化等を図りつつ、当事業サービスへのファンの拡大を図る。

3) デジタル・サイネージへの有料CM出稿企業の拡大

当NPO法人東京本社と沖縄事務所の連携により推進していく。

4) ポイント還元サービスへの協賛企業の拡大

ポイント協賛企業の更なる参加を集める。

である。

さらに、平成22年度において明らかとなった課題に対処すべく、システム開発としては以下の2点に取り組みたい。

1) スマートフォンへの対応

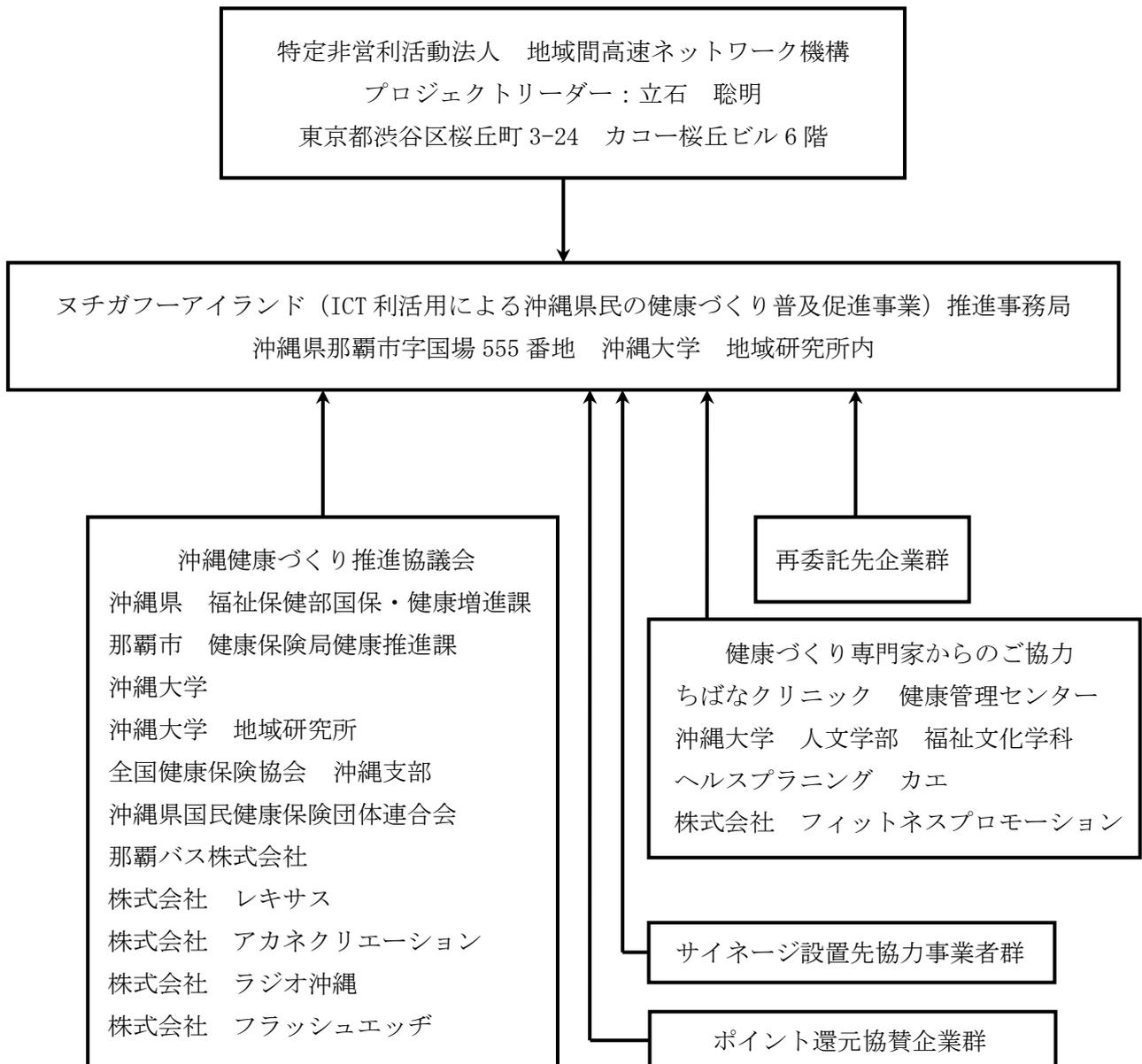
2) PHR/SNSのより利便性を高める機能の追加

である。

これらが整う事によって、より多くのユーザを獲得していくと同時に、そのことが当事業の本来の目的である「健康づくり活動」の普及促進につながるものと考えている。

III 実施体制

1 実施体制



2 各主体の役割

No	名 称	役 割
1	NPO 法人地域間高速ネットワーク機構	本事業の受託総責任団体。総合統括を行う。
2	ヌチガフアイランド推進事務局	地域間高速ネットワーク機構より、本事業のためだけに編成された事業推進の実行部隊。本事業に関わる全ての作業は、この推進事務局が司る。
3	沖縄健康づくり推進協議会	本事業に対し、事務局外部からあらゆる面で助言・提言を行ったり、事業推進のための人的ご協力を頂く。

4	沖縄県 福祉保健部国保・健康増進課	沖縄県の立場から健康づくりの普及に対して、助言・提言を行う。
5	那覇市 健康保険局健康増進課	那覇市の立場から健康づくりの普及に対して、助言・提言を行うとともに、特定健康診断受診率の促進に向けて、共同で那覇市民に対しての意識喚起を行う。
6	沖縄大学	地域共生をテーマとした大学という立場から、助言・提言を行う。
7	沖縄大学 地域研究所	推進事務局等の設置、専門的な分野の人的紹介、人材育成等の様々な分野でご協力を頂く。
8	全国健康保険協会 沖縄支部	沖縄における健康増進事業の先駆者的な立場から、助言・提言を行う。
9	沖縄県国民健康保険団体連合会	沖縄における健康増進事業の先駆者的な立場から、助言・提言を行う。
10	那覇バス株式会社	サイネージ設置協力企業として、本事業に協力する。
11	株式会社 レキサス	本事業の根幹システムでもある PHR/SNS/PHR 参照等のシステム開発を行う。人材育成等の分野でご協力を頂く。
12	株式会社 アカネクリエーション	サイネージの広告分野において、助言・提言を行う。
13	株式会社 ラジオ沖縄	マスメディア機関の立場から、本事業を一般に普及させるための助言・提言を行う。
14	株式会社 フラッシュエッジ	本事業の WEB コンテンツ、サイネージ・コンテンツ等の制作を行う。
15	再委託先企業群	本事業に必要な開発業務を受注している企業群。一般競争入札を経て、各社に割り当てられている。
16	ちばなクリニック 健康管理センター	生活習慣改善のための医療分野からの専門家として、医師（清水氏）が専門アドバイザーとして参画。
17	沖縄大学 人文学部 福祉文化学科	生活習慣改善のための医療・運動分野からの専門家として、先生方（山代氏・大場氏）が専門アドバイザーとして参画。
18	ヘルスプランニング カエ	生活習慣改善のための食分野からの専門家として、代表を務める伊是名氏が専門アドバイザーとして参画。
19	株式会社 フィットネスプロモーション	生活習慣改善のための運動分野からの専門家として、益田氏が専門アドバイザーとして参画。
20	サイネージ設置先協力事業者群	常設型のデジタル・サイネージの設置にご協力頂いている。
21	ポイント還元協賛企業群	当事業で展開しているポイント還元サービスに、商品またはサービスをご提供頂いている。

3 事業実施進行表

実施内容	H22				H23						
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
協議会等設立準備 会合	△										
協議会等開催		△		△		△	△				
システム構成の検 討・決定	→										
システム構築に係 る競争入札		→									
システム設計			→								
PHR/SNS/PHR 参照システム 開発			→								
PHR/SNS/PHR 参照システムテ スト稼働・修正					→	→	→				
ポイント管理システム開発				→	→	→					
ポイント管理システムテスト 稼働・修正							→	→			
ポイント協賛事業 者募集							→	→	→	→	
ポイント還元サー ビスの開始											→
サイネージ・システムの開発			→	→	→	→					
サイネージ・システム 不良による稼働調整						→	→				
サイネージ設置工事					→	→	→	→	→	→	→

実施内容	H22				H23						
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
コンテンツ制作			→					→			
モニターテスト					→						
ICT 利活用教室（初級編）					→						
ICT 利活用教室（中級/実践編）							→				
モニター講習会						→					
サインージ・コンテンツ制作教室				→							
ICT 利活用普及促進イベント									△		
システム運用					→						
報告書の作成											→

IV 本事業に関する周知・広報等

1 本事業により構築したウェブサイト又は本事業を掲載したウェブサイト

<http://nuchigafu.com>

2 メディア等での紹介

①新聞による当事業の紹介

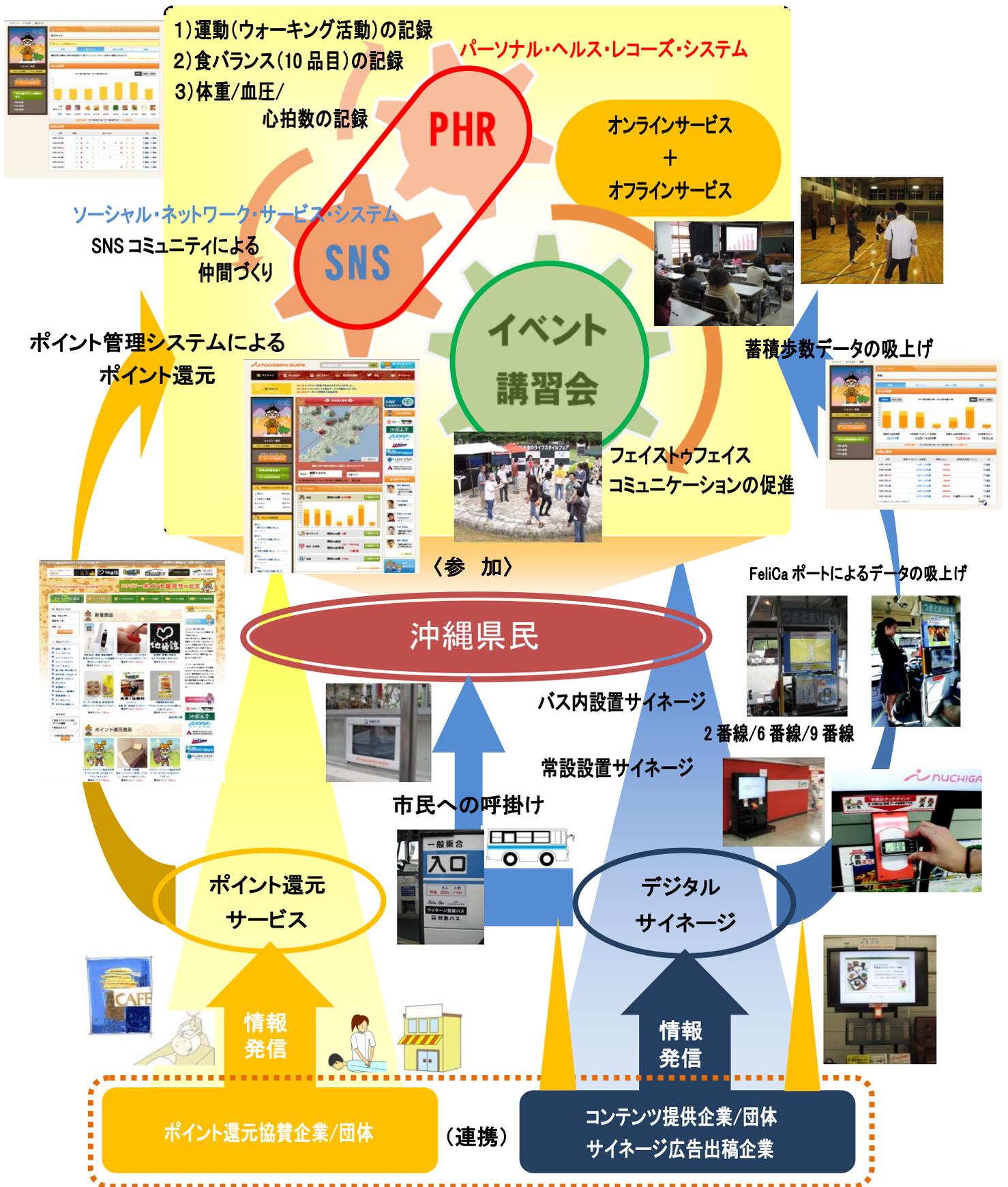
- 2011年1月14日 沖縄タイムス〔9面〕（添付資料参照）
- 2011年1月14日 琉球新報〔5面〕（添付資料参照）
- 2011年1月14日 日本経済新聞〔35面〕（添付資料参照）
- 2011年2月7日 電経新聞〔3面〕

②Webによる当事業の紹介

- ビジネスネットワーク.jp
〔記事〕
<http://businessnetwork.jp/Detail/tabid/65/artid/1053/Default.aspx>
〔トップ：新着記事〕 <http://businessnetwork.jp/Default.aspx>
- 日経プレスリリース
<http://release.nikkei.co.jp/detail.cfm?relID=272668&lindID=1>
- 日刊工業新聞 BusinessLine
<http://www.nikkan.co.jp/newrls/rls20110203m-01.html>
- ケータイ Watch
http://k-tai.impress.co.jp/docs/news/digest/20110203_424658.html
- ComSearch
<http://www.comsearch.jp/release/archives/2011/02/comsearch33558-20110204132850.html>
- BCN Bizline
http://biz.bcnranking.jp/article/news/1102/110204_125347.html
- Yahoo! ニュース - BCN Bizline
<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20110204-00000007-bcn-sci>
- サーチナニュース - BCN Bizline
http://news.searchina.ne.jp/disp.cgi?y=2011&d=0204&f=it_0204_021.shtml
- asahi.com - BCN Bizline
<http://www.asahi.com/digital/bcnnews/BCN201102040009.html>
- asahi.com mini - BCN Bizline
<http://mini.asahi.com/business/BCN201102040009.html>
- ITnow - asahi.com
<http://it-now.jp/security/compromise/79643.html>
- MOBILEnow - asahi.com
<http://mobile-now.jp/wifi-mobile/wimax/85839.html>

3. その他

〔ICT 利活用による沖縄県民の健康づくり普及促進事業〕



V 事業による成果

1 事業による成果（アウトプット指標）

項目	成果指数	成果指数に関する説明等	調査時期	結果についての分析等
専門家の参加者数	5人	当事業の専門家アドバイザー	2011年7月末	当事業には、医療関係専門家2名、運動関係専門家2名、食関係専門家1名の計5名がアドバイザーとして参加されている。計画通りの専門家の方々を集めることができた。
事業協力としての参加事業者数	43社	当事業の推進にご協力頂いている事業者数。その内訳は以下の通り。 1) 事業推進協力団体 2) 専門アドバイス協力団体 3) サイネージ設置協力先 4) ポイント協賛団体	2011年7月末	当初考えていた参加事業者数をはるかに超える。全く「ゼロ」の状態から始まったことを考えると、1年弱でこれだけの事業者と関わりをもつような状況を生み出したことは、今後の事業展開にとって非常に価値が高いと考える。
ポイント還元サービスへの参加事業者数	23社	上記事業協力事業者の中で、ポイント協賛団体のみを抜き出した数	2011年7月末	当事業にとって、ポイント還元サービスは目玉の一つである。初期の時点で、20社を超える企業に集まって頂いたのは、非常に大きい。次年度では、50社まで拡大させることを目標としている。
デジタル・サイネージへの広告出稿事業者数	32社	デジタル・サイネージに広告出稿をしている事業者数	2011年7月末	現在、広告として当サイネージに出稿して頂いている事業者は32社。当面は80社を目標に営業展開を行っていく。
PHR 参照システムへの参加事業者数	1団体	PHR 参照システムに連携している事業者数	2011年7月末	PHR 参照システムはまだ始まったばかりであり、現時点としては各専門機関に案内している。

PHR/SNS の利用登録者数	612 人	当事業のサービスに登録している登録者数	2011 年 7 月末	当初の目標としては、1,100 人の利用者数であったが、モニターテスト終了後の継続利用率は 56%に留まった。今後は個人ならびに法人団体に向けて積極的な営業活動を行っていかねばならない。
PHR/SNS システム月間平均ページビュー数	23,595 回	当事業の WEB サイトで見られている月間ページビュー数 Google アナリティクスによる分析	2011 年 1 月～7 月までの 7 ヶ月間の月間平均値	7 ヶ月間のページビュー数の変化で最も高かったのが 2 月の 41,986 回、最も少なかったのが 7 月の 11,462 回。モニターテスト終了後の活性化施策を行わねばならない。
PHR/SNS システム月間平均訪問数	2202 回	当事業の WEB サイトに訪問している月間数 Google アナリティクスによる分析	2011 年 1 月～7 月までの 7 ヶ月間の月間平均値	モニター参加者以上の方から当 WEB サイトに訪問されている。ただ、まだ社会に認知されているレベルには至っていないと考える。
PHR/SNS システム月間平均新規訪問率	26.3%	当事業の WEB サイトに訪問している月間新規訪問率 Google アナリティクスによる分析	2011 年 1 月～7 月までの 7 ヶ月間の月間平均値	5 月と 7 月は、他の月と比べ新規訪問者の割合が高い。ICT 利活用イベントにて、当事業の宣伝も行った結果と思われる。
デジタル・サイネージのコンテンツ数	57 本 (2011 年 7 月 28 日時点での配信中)	デジタル・サイネージに配信しているコンテンツ数	2011 年 7 月末	デジタル・サイネージのシステム調整に手間取ったが、57 本のコンテンツが流れている状態にはもっていくことが出来た。当面は 150 本以上のコンテンツを常時配信している状態を目指している。
デジタル・サイネージ・コンテンツ学生制作数	45 本	デジタル・サイネージ・コンテンツ制作教室より学生によって制作された作品数	2010 年 12 月～2011 年 3 月	デジタル・サイネージ・コンテンツ制作教室に参加した学生から 45 作品の作品が出展された。共通テーマとして「歩く」を題材にした作品である。参加した多くの学生から、非常に喜ばれた。

デジタル・サイネージにおけるコンテンツ更新数	月間平均 2 回	デジタル・サイネージでコンテンツの更新している更新回数	2011 年 3 月～7 月	現在は月 2 回ほどの更新回数だが、今後、有料 CM の営業活動が活発になっていくため、その更新回数は増えていくものと考えている。
デジタル・サイネージ端末設置台数	50 台	デジタル・サイネージ端末の設置台数	2011 年 7 月末	当初の計画通りである。 ただ、歩数計のデータ送信箇所としては、少なすぎるというユーザからの声も多い。
利用者 1 人当たりの週平均ログイン回数	1.5 回	利用者 1 人当たりのログイン回数（平均値）	2011 年 1 月～3 月末	モニター参加者からのデータとは言え、ログイン回数は少ない。ただ、ヘビーユーザとそうでないユーザがはっきりと分かれている。より多くログインしてもらうには、SNS 運営の活性化が必要と考える。
SNS コミュニティ数	4 つ	当事業の WEB サービス上で公開されているコミュニティの数	2011 年 7 月末	SNS コミュニティの数は、まだまだ少ない。SNS コミュニティを活性化させることは、当事業の発展にとって大きな意義を持つため、ICT 人材育成で育成した方々と連携を図っていこうと考えている。
ポイント還元サービスのサービス利用状況	32 件（6 月） 5 件（7 月）	ポイント還元サービスのサービス利用状況	2011 年 6 月 2011 年 7 月	ポイント還元サービスは始まったばかりで、メールやサイト内ニュースとして案内しているが、まだまだ利用回数が少ない。当サービスには、多くの事業者が協賛出展して頂いているので、もっと多く利用されるよう努力していかなければならない。
ICT 人材育成数	1,390 人 延べ人数	I-1 枠で行った人材育成数	2011 年 1 月～3 月末	モニターテストに参加した方々も含めての人数である。今後は、この方々と共に連携を図りながら、当事業の発展に努めなければならない。

2 事業による社会的効果等（アウトカム指標）

項目	事業成果	調査内容	算出方法	調査時期	結果についての分析
健康に対する 関心度	69.2%	モニターテスト 1,100 人に対して行 ったアンケート調査	「あなたご自身の健 康に対して、ご関心を 抱かれていますか」と いう問いに「非常に関 心がある」「まあまあ 関心がある」と回答さ れた方の割合	2011 年 1 月	当事業サービスのモニターとして参加して頂いた方々 が対象ということもあって、約 7 割弱の方が、自分の 健康に関心を示している。この方々は、当事業にとっ て、ベースマーケットとなる。この方々を如何に取り 込んでいくかが、今後の事業の推進にあたってのキー となる。
生活習慣病に 対する関心度	64.4%	モニターテスト 1,100 人に対して行 ったアンケート調査	「生活習慣病につい て、ご関心を抱かれて いますか」という問い に「非常に関心があ る」「まあまあ関心 がある」と回答された方 の割合	2011 年 1 月	当事業サービスのモニターとして参加して頂いた方々 が対象ということもあって、生活習慣病に対する関心 度も 6 割強の方々が関心を示している。現在、デジタ ル・サイネージを通して、専門の先生方から生活習慣 病に関する情報を配信している。正しい情報をできる だけ身近な情報メディアから配信し、地域住民の意識 付けを行っていきたい。
体重測定の実 施頻度	毎日/ほぼ毎 日：19.3% 週に数回： 18.6% 月に数回： 21.3%	モニターテスト 1,100 人に対して行 ったアンケート調査	「あなたはどれぐら いの頻度で体重測定 をされますか」という 問いに回答された方 の割合	2011 年 1 月	体重測定は、生活習慣病改善に向けた 1 つの基本行動 である。ここでは、4 割弱の方々が、週に 1 回は体重を 計測されている。当初、想定していた割合よりは高い 結果となった。
運動実施への 関心度	68.5%	モニターテスト 1,100 人に対して行	「あなたご自身が運 動をすることに対し	2011 年 1 月	当事業のメインテーマがウォーキングの実施というこ ともあって、そのモニターが対象とした運動への関心

		ったアンケート調査	て、ご関心を抱かれていますか」という問いに「非常に興味がある」「まあまあ興味がある」と回答された方の割合		度は高い。ただ、そのような中でも3割強は、当事業のモニターとして参加していながらも運動にあまり関心を示していない。 今後は、このような方々を運動実施に結びつけるきっかけ作りが重要となる。
ウォーキング・ジョギングの実施率	ウォーキング実施率： 32.5% ジョギング実施率：18.4%	モニターテスト 1,100人に対して行ったアンケート調査	「具体的には何か実践されている、もしくはされたことはありますか」という問いに「ウォーキング」および「ジョギング」と回答された方の割合	2011年1月	現実に時間を割いて、ウォーキングを実施している人は3割強であった。 当事業サイトでは、WEB動画を通して、歩き方やその準備体操の仕方を配信している。 今後は、グループでウォーキングを楽しむ仲間づくりの構築に励みたい。
栄養バランスへの関心度	44.2%	モニターテスト 1,100人に対して行ったアンケート調査	「食事の際、栄養バランスを気にされていますか」という問いに「気にしている」と回答された方の割合	2011年1月	栄養バランスの改善は、当事業にとって運動実施の促進と並んで重要な項目として挙げている。現時点では、まだ約半数の方々のみしか栄養バランスへの関心度を示していない。沖縄県は、全体的に肉食と油料理に偏っているため、この点の改善啓蒙活動は重要となる。
栄養バランス改善工夫の実施率	26.5%	モニターテスト 1,100人に対して行ったアンケート調査	「栄養をバランス良く摂取するために、何か工夫をされていますか」という問いに「している」と回答された方の割合	2011年1月	3割弱の方々が、実際に栄養バランス改善に対する何らかの工夫をされていた。 当事業でも、食の専門家からのコメント配信をWEBおよびデジタル・サイネージの両面から情報配信している。また、先生方の講習会も実施してきた。これらの活動の継続が、更なる数字改善につながっていくものと思われる。

健康診断受診の重要性の認識度	2.5%	モニターテスト 1,100 人に対して行ったアンケート調査	「健康維持に大切だと思われることは、何だと思われますか」という問いに「定期的な健康診断」と回答された方の割合	2011 年 1 月	健康診断受診の重要性を感じている人は、3%弱と極めて少ない。健康保険の場合は、企業検診等で受診されるが、国民健康保険等の自営業者や学生は、この数字のまま行動すると、その受診率は低くなる。現在、那覇市と連携して、デジタル・サイネージを通して特定健康診断の受診に関する情報を配信しているが、更なる受診率アップに向けた企画の実施が必要である。
主観的健康度の向上率	9.7%	モニターテスト 1,100 人に対して行ったアンケート調査	当事業のサービスを 8 週間受けて、何らかの身体的改善を感じた方の割合	2011 年 3 月	当事業のモニターテストの期間は約 8 週間という短い期間ではあったが、その中でも、1 割弱の方々に、何らかの身体改善を感じてもらうことができた。
当事業のサービス利用満足度	49.9%	モニターテスト 1,100 人に対して行ったアンケート調査	当事業のサービスを 8 週間受けての満足度を問う問いに「大変満足している」「まあまあ満足している」と回答された方の割合	2011 年 3 月	当事業のサービスをモニターとして利用して頂いた方々の約半数の方々から満足感を示して頂いた。ただ、不満と回答された方々の意見の多くは、歩数計情報の配信手段が、PC もしくはデジタル・サイネージに設置した FeliCa ポートのみからであり、そのような設備もしくはサイネージへのタッチが困難な方々の多くから、データ送信手段の何らかの工夫もしくは歩数計タッチポイント箇所の増設を要望された。
健康づくり講習会開催数	5 回	当事業の健康づくり講習会実施回数	当事業の健康づくり講習会実施回数	2011 年 1 月～3 月	本年度は、当事業単独で行った。次年度においては、那覇市、協力参加団体とも連携した形での講習会を実施したい。
ICT 利活用講習会開催数	8 回	当事業の ICT 利活用促進講習会実施回数	当事業の ICT 利活用促進講習会実施回数	2011 年 1 月～3 月	本年度は、当事業単独で行った。次年度においては、那覇市、協力参加団体とも連携した形での講習会を実施したい。

ICT 利活用地域イベント開催回数	1回	当事業のICT利活用イベント実施回数	当事業のICT利活用イベント実施回数	2011年1月～7月	本年度は、当事業単独で行った。次年度においては、那覇市、協力参加団体とも連携した形でのイベントを実施したい。
新規健康増進活動実施者数	612人	当事業サービスの利用登録ユーザ数	2011年7月時点で当事業サービスに登録されているユーザ数	2011年7月	モニターテスト終了後の利用者数としては、55.6%の水準にとどまった。これらのユーザを基本に、今後、ユーザ獲得を目指した本格的な営業を行っていく。
特定健康診断受診率（那覇市）	現在集計中	那覇市における特定健康診断受診者資料	那覇市における特定健康診断受診者データ	2011年3月末日	那覇市の2011年3月末での特定健康診断率のデータは10月中旬に発表される予定。
客観的健康度向上率（那覇市）	現在調査中	那覇市における特定健康診断受診者資料	2011年3月末日までと2012年3月末日までのそれぞれ1年間の特定健康診断受診者資料を基に比較	2011年3月末日～2012年3月末日	2010年度分データと2011年度分データの相互比較より算出されるため、現在調査中となる。
生活習慣病患者数（那覇市）	現在調査中	那覇市における特定健康診断受診者資料	2011年3月末日までと2012年3月末日までのそれぞれ1年間の特定健康診断受診者資料を基に比較	2011年3月末日～2012年3月末日	2010年度分データと2011年度分データの相互比較より算出されるため、現在調査中となる。
生活習慣病改善者数（那覇市）	現在調査中	那覇市における特定健康診断受診者資料	2011年3月末日までと2012年3月末日までのそれぞれ1年間の特定健康診断受診者資料を基に比較	2011年3月末日～2012年3月末日	2010年度分データと2011年度分データの相互比較より算出されるため、現在調査中となる。

医療費の削減額（那覇市）	現在調査中	那覇市における医療費削減額資料	2011年3月末日までと2012年3月末日までのそれぞれ1年間の医療費の比較	2011年3月末日～2012年3月末日	2010年度分データと2011年度分データの相互比較より算出されるため、現在調査中となる。
介護費の削減額（那覇市）	現在調査中	那覇市における介護費削減額資料	2011年3月末日までと2012年3月末日までのそれぞれ1年間の介護費の比較	2011年3月末日～2012年3月末日	2010年度分データと2011年度分データの相互比較より算出されるため、現在調査中となる。

3 目標の進捗率

指標	目標値	結果の数値	計測方法・出展等	調査時期	結果の分析
デジタル・サイネージ設置台数	50 台	50 台	当事業における設置台数	2011 年 7 月 末日	設置に関しては、かなり困難な面もあったが、何とか無事に 50 台のデジタル・サイネージを設置することができた。
ポイント協賛参加企業数	15 社	23 社	当事業への参加企業数	2011 年 7 月 末日	ポイント協賛参加企業は、当初の予測よりも多くの事業者に参加頂いていた。
当事業のサービス利用者数（モニター数）	1,100 人	1,100 人	当事業のモニターテストによる参加者数	2011 年 1 月 ～3 月末日	予定通りのモニターテストの参加者数を集めることができた。
当事業のサービス利用者数（利用者数）	1,100 人	612 人	当事業のモニターテスト終了後の継続ユーザー数	2011 年 7 月 末日	モニターテスト終了後の利用者数としては、55.6%の水準にとどまった。これらのユーザを基本に、今後、ユーザ獲得を目指した本格的な営業を行っていく。
那覇市特定健康診断受診率	45%	現在集計中	那覇市における特定健康診断受診者資料	2011 年 3 月末日	那覇市の 2011 年 3 月末での特定健康診断率のデータは 10 月中旬に発表される予定。